第18回江東区都市計画マスタープラン2022推進会議【会議録】

開催日時	令和8年8月26日(水)　午前10時00分～
開催場所	江東区文化センター1階第11･12会議室
出席者 (敬称略･順不同)	【委員】 ＜委員長＞志村 秀明 ＜委員＞村木 美貴、市古 太郎、江守 央、柳井 重人 【区職員】 都市整備部長、まちづくり調整担当部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、地下鉄8号線沿線まちづくり担当課長、再開発担当課長、住宅課長、建築課長、建築調整課長、安全都市づくり課長
※意見箇所欄―――後:後日意見	

議題			所管
亀戸未来ビジョン(素案)について			まちづくり推進課
意見箇所		意見要旨	回答
1	資料2-2	大規模水害時の避難については、亀戸地区内だけでなく、隣接する墨田区などへの広域避難も選択肢として検討すべきではないか。 実際には高台の確保や浸水深を考慮した避難先の確保が重要になるが、より広域的な視点から「地域としてどこへ避難することが望ましいのか」を検討することも必要である。	ご意見を踏まえ、今後の計画や具体的な取組みの中で検討していきたい。
2	資料2-2	小学校は地域防災拠点として重要な役割を担っていることから、防災まちづくりにおいては小学校区単位で避難や防災対応を考えることが有効である。 あわせて、小学校区ごとの取組に加え、小学校区同士の連携や調整についても検討することで、より実効性の高い避難体制の構築につながるのではないか。	
3	資料2-2	浸水時の避難先としては、都営住宅等も有力な候補の一つであると考えられるため、区としても活用に向けた働きかけや要望等を検討してはどうか。 また、大島地区との連携も視野に入れつつ、UR団地なども含めて浸水時の避難先となり得る施設の可能性を検討していくことが望ましいのではないか。 まずは小学校区内で活用可能な避難先のポテンシャルを把握するとともに、学区外や地区南側も含めた広域的な視点で避難先の確保を検討してはどうか。	都営住宅やUR団地建替えの際には、(浸水対応型まちづくりに資する計画となるよう、)各事業主と協議しながら進めている。 ご意見を踏まえ、今後の計画や具体的な取組みの中で検討していきたい。

議題			所管
亀戸未来ビジョン(素案)について			まちづくり推進課
意見箇所		意見要旨	回答
4	資料 2-2	亀戸駅周辺は今後、バリアフリー基本構想における重点整備地区としての検討が予定されていることから、未来ビジョンとバリアフリー施策との連携も踏まえながらまちづくりを進めてほしい。	ご意見を踏まえ、今後の計画や具体的な取組みの中で検討していきたい。
5	資料 2-2	高台スペースづくりの取組を進めるにあたっては、高台となる場所を探すだけでなく、実際に避難可能な建築物や避難先を把握する取組もあわせて行うと、防災力向上につながるのではないか。	
6	資料 2-2	未来ビジョンでは来街者への対応や商業振興について記載されているが、小規模店舗については、国などの取組を見ても、その対象から外れやすい傾向がある。 他自治体では、小規模店舗の改修や魅力向上に対して補助制度を設けている事例もあり、そのような支援策を活用することで、より魅力的で多様な商業空間の形成につながるのではないか。	現在もバリアフリー施設整備助成を実施しているが、なかなか件数が伸び悩んでいるところである。今後は、バリアフリー基本構想の改定に伴い、小規模店舗だけでなく、幅広く活用していただけるように、補助金額の増額を検討していきたい。
7	資料 2-2	小規模店舗向けの補助制度は既に存在しているとのことであるが、その存在が十分に知られていないように感じる。 制度の活用促進に向けては、商店街や事業者への情報提供を充実させるなど、より効果的な周知方法を検討してほしい。	情報提供については、経済課と連携して「ことみせ」店舗へのチラシの配布を実施しているが、周知方法についても引き続き検討していきたい。
8	資料 2-2	公園と歴史・文化資源が別々に整理されているが、亀戸は社寺林や境内地、大規模公園などのオープンスペースにも恵まれた地域であると思われる。これらの空間は活用次第で地域の活力向上につながる可能性があるため、例えば美化活動ワーキングについても、清掃や緑化だけでなく、公園等の活用や使いこなしという視点を含めて検討してはどうか。	公園等はオープンスペースとしても重要な場所であるため、活用方法等を検討していきたい。
9	資料 2-2	亀戸景観重点地区においては、これまで景観形成住民団体による活動が行われてきたが、近年は目立った活動が見られていない状況である。 そのため、景観形成に関する取組を継続・発展させる観点からも、景観形成住民団体と亀戸エリアプラットフォームとの連携を検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、景観形成住民団体との連携について、亀戸エリアプラットフォーム内で検討等していきたい。

議題			所管
亀戸未来ビジョン(素案)について			まちづくり推進課
意見箇所		意見要旨	回答
10	資料 2-2	未来ビジョンの内容や検討プロセスは非常によく整理されており、有意義な取組であると感じる。 一方で、将来像、ワーキンググループ、リーディングプロジェクト、ロードマップなど、多くの要素が盛り込まれているため、全体構成がやや分かりにくく感じられる部分もある。 そのため、目次や構成図を充実させるなど、全体像や各パートの関係性が分かるよう整理することで、今後の意見募集や情報発信の際にも、より理解しやすい資料になるのではないか。	
後11	資料 2-2	亀戸未来ビジョンと地域公共交通計画との関係性について、ビジョン内に記載があるか。	現時点の亀戸未来ビジョン(素案)には地域公共交通計画に関する具体的な記載は盛り込んでいない。ご意見を踏まえ、今後の計画や具体的な取組みの中で検討していきたい。
後12	資料 2-2	地域公共交通計画では亀戸から新木場方面への LRT 構想について、需要面の課題から当面は見送る整理となっている一方、区間の移動需要については既存バス路線の活用等により対応していく方向性が示されている。そのため、未来ビジョンにおいても、公共交通に関する記載の中で地域公共交通計画との関係性に触れておくことが望ましいのではないか。	ご意見を踏まえ、亀戸未来ビジョン内での記載の要否や記載方法について検討していきたい。

その他(今後のまちづくりに関する意見)

意見箇所		意見要旨	回答
後1	－	各議題に共通する事項として、自動運転技術の進展を見据え、今後のまちづくりや再開発の検討においては、モビリティハブや乗降空間等、次世代交通への対応を意識されたい。	